

鹿屋市立南小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、令和 3 年度～令和 4 年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の 時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえて、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学 1 年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校 6 年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年 (教科)	6 年 (教科)	総時数
年間時数	2 0	2 0	3 5	3 5	7 0	7 0	2 5 0
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

鹿

鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒に作り、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」を育成を目指します。

2 本校の教育目標

学ぶ喜びを知り 豊かな感性と たくましく生きる力のある 南小の子どもの育成

3 本校の令和 3 年度英語教育の実践について

(1) 1・2 年生の取組

- ・ ALT や JTE を招聘しての授業実践
- ・ 年 1 回授業参観での外国語（活動）の授業提供

(2) 3・4 年生の取組

- ・ ALT や JTE を招聘しての授業実践
- ・ 年 1 回授業参観での外国語（活動）の授業提供

(3) 5・6 年生の取組

- ・ ALT や JTE を招聘しての授業実践
- ・ 年 1 回授業参観での外国語（活動）の授業提供

- (4) 鹿屋市各地区英語教育圏推進会議について（小中一貫教育）
 - ・ 6年生児童を対象に、中学校からの乗り入れ授業（英語）の実施
 - ・ 中1ギャップ解消に向けた校種間連携と情報交換
- (5) 校内研修体制について
 - ・ 職員の英語指導スキル向上のための研修会参加とその還元
 - ・ 教職員の定期的なクラスルームイングリッシュとの触れ合い
 - ・ 英語科授業の相互参観

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

- (1) 自己評価（児童）の結果から
英語の授業は楽しいですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
楽しい	60%	100%	67%	83%	67%	100%
どちらかという楽しい	40%	%	33%	%	33%	%
あまり楽しくない	%	%	%	17%	%	%
楽しくない	%	%	%	%	%	%

- (2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
100%	0%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述，一部抜粋）

- ・ 英語に親しみをもち，好きになってもらいたい。
- ・ クラスルームイングリッシュを低学年から継続して使っていくことで，自然と出るようになり，英語でのやりとりに慣れ親しむこと。
- ・ 英語に対する苦手意識をなくすことと，語彙力の向上

- (3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは，英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
80%	20%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述，一部抜粋）

- ・ 日常的な英語の活用，クラスルームイングリッシュなど，環境設営
- ・ ALTの先生を通して，コミュニケーションや世界に興味をもってほしい。
- ・ 楽しく英語に触れ，表現力が豊かになってほしい。

- ・ 日常会話を知り、英語（外国語）に興味をもってほしい。

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
57%	28%	15%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 日常の中で使える言葉を増やしていく。
- ・ 家族での取組など日常化を図る。
- ・ 歌を取り入れるなどの楽しい学習により、英語を好きになってほしい。

5 令和4年度の取組について

(1) 1・2年生の取組

- ・ ALT・JTEと連携を図り、生きた英語に数多く触れさせる機会を作る。
- ・ コミュニケーションの重要性とともに、英語に興味をもって楽しく話すことを目指す、子どもたちによく理解される授業をしていく。
- ・ 日本語から英語ではなく、英語をイメージ（感覚体験）して身に付けさせていく。

(2) 3・4年生の取組

- ・ ALT・JTEと連携を図り、生きた英語に数多く触れさせる機会を作る。
- ・ コミュニケーションの重要性とともに、英語に興味をもって楽しく話すことを目指す、子どもたちによく理解される授業をしていく。

(3) 5・6年生の取組

- ・ ALT・JTEと連携を図り、生きた英語に数多く触れさせる機会を作る。
- ・ コミュニケーションの重要性とともに、英語に興味をもって楽しく話すことを目指す、子どもたちによく理解される授業をしていく。
- ・ 書く活動に力を入れる。

(4) 鹿屋市英語教育圏推進会議と鹿屋市各地区英語教育圏推進会議（小中一貫教育）について

- ・ 中学校校区で合同研修会や情報交換会を開くなど、連携を深める。
- ・ 高学年への英語の乗り入れ授業が積極的に展開できるように、計画に組み込む。

(5) 鹿屋市小中学校英語弁論大会（小学校：スキット部門）について

- ・ 少人数のよさを生かし、JTEを効果的に活用した個別指導を計画的に実施していきたい。

(6) グローカル・イングリッシュキャンプについて

- ・ 在籍児童は少人数ではあるが、積極的に周知して参加者を募っていく。
- (7) 国立台北教育大教育実習生の受入による交流授業並びに遠隔授業について
- ・ 2学期の指導計画をもとに積極的な活用を図る。
- (8) スピーキングクエストの実施について
- ・ 複式学級のため、A年度、B年度の教育課程を実施しており、スピーキングクエストに向けてしっかりと復習を行っていく必要がある。
- (9) 校内研修体制（イングリッシュガイドブック・学習指導案等の活用）について
- ・ 校内での参観授業の指導略案作成などの際に具体的な活用を図る。
 - ・ 外部研修等に積極的に参加し、指導力向上を図るとともに、研修したことを校内へと還元できる態勢の構築。
 - ・ A L T ・ J T E の計画的配置による効果的な授業推進